小城市立三日月中学校　令和８年度　第１０号　令和８年１０月８日
文責　校長　原田　常昭

叡知

《学校教育目標》
「志をもち、主体的に挑戦し、未来を切り拓く生徒の育成」
～夢・挑戦・協働　三中～

「曼珠沙華のように、今を精いっぱい」

朝夕の涼しさに秋の深まりを感じる頃となりました。三日月中学校の通学路では、鮮やかな赤い曼珠沙華（彼岸花）が咲き誇り、秋の訪れを美しく彩っています。

俳人・山口誓子は、「つきぬけて 天上の紺 曼珠沙華」と詠みました。澄み切った青空に向かって、まっすぐに咲く曼珠沙華。その凛とした姿には、周囲の環境に左右されることなく、自らの持ち味を精いっぱい発揮する力強さを感じます。

学校生活も、いよいよ充実の秋を迎えます。学習や学校行事、部活動、日々の仲間との関わりなど、一つ一つの経験を大切にしながら、自分の可能性に挑戦してほしいと思います。教職員一同、生徒一人一人の「やってみたい」「もっと伸びたい」という思いを大切にし、学びを支え、成長を後押ししてまいります。

◆自分の未来を守るために
～薬物乱用防止教室～

９月 25 日、２年生を対象に、佐賀県保護司会連合会事務局長の上田京子様をはじめ、６名の小城市内保護司の皆様をお招きし、「地域の力で、防ごう薬物乱用」と題した講話と役割演技を行いました。薬は本来、病気の治療や健康を支えるものですが、過剰摂取（オーバードーズ）も薬物乱用に当たることや、違法薬物・覚醒剤等が脳や心身に深刻かつ長期的な影響を及ぼすことを学びました。また、誘われた際には「はっきり断る」「その場から立ち去る」ことの大切さを、役割演技を通して具体的に考える機会となりました。

自分の未来を守るために、正しい知識と適切な判断力を身に付けることの重要性を学ぶ有意義な時間となりました。

◆三日月中生の「学びの姿」を県内へ

９月 28 日、佐賀県教育委員会認定スーパーティーチャーである本校国語科　嶺川真由美教諭の授業を、県内各地から多くの先生方が参観されました。

３年４組の授業では、「わたしの『故郷』を一文に凝縮し、根拠と理由を説明しよう」というめあてに向け、生徒たちは多くの参観者を前にしても臆することなく、仲間と協働しながら考えを深め、堂々と表現することができました。

参観された先生方からも、生徒たちの学びの深まりや主体的に学ぶ姿を高く評価していただきました。

◆思い込みを見つめ直し、互いを理解する

10 月１日、小城市人権・同和教育授業実践交流会が本校で開催され、市内の小中学校から多くの先生方が参観に来校されました。２年２組では、材木心教諭が「泣いた赤おに」を題材に道徳の授業を公開しました。生徒たちは、「鬼」に対する「怖い・強い・暴力的」といった固定的なイメージを見つめ直

し、人と鬼、赤鬼と青鬼が互いに理解し合うためにはどうすればよいかを考え、活発に意見を交流しました。

参観された先生方からも、温かな学級の雰囲気や、自分の考えを堂々と伝える生徒たちの姿、学びの深まりを高く評価していただきました。

◆無言清掃の意味を、みんなで考える

10月6日、整美部部長の太田桐矢さんと池田真香さんが、パワーポイントを使って、本校が大切にしている「無言清掃」と「三中流清掃」の在り方について全校生徒に説明しました。無言清掃は、単に「静かに掃除をする」ことが目的ではなく、自分の役割に責任をもち、目の前の清掃に集中するとともに、仲間と協力して学校をよりよくしていく取組です。生徒自身がその意義や目的を考え、全校に発信する姿から、主体性や責任感の育ちを感じることができました。

◆自分に克ち、仲間につなぐ

10月6日、小城多久地区駅伝大会選手激励式を行いました。本校には陸上部はありませんが、サッカー、バレーボール、ソフトテニス、バスケットボール、新体操、地域クラブなど、様々な競技に取り組む生徒21名が、7月から合同練習を重ねてきました。特に3年生は、受験勉強との両立を図りながら努力を続けています。

激励式では、これまで積み重ねてきた努力を自信に変え、苦しいときこそ自分に打ち克ち、仲間から託されたたすきを次へつなぐことの大切さを伝えました。三日月中の代表として、一人一人が力を出し切ることを、学校全体で応援しました。

◆人権講話「挑戦する心、あきらめない心」

9月15日、1年学年主任の水落先生を講師に、「挑戦する心、あきらめない心」と題して人権講話を行いました。水落先生自身の教師としての経験を振り返りながら、保健体育教師 星野富弘さんの生き方を紹介しました。

大けがにより、歩くことも走ることも、好きだった体操もできなくなった星野さん。しかし、口に筆をくわえ、時間をかけて文字や絵を描くことに挑戦しました。そこには、「少しずつでも、もう一度やってみる」姿勢と、周囲に助けを求める大切さがあります。

「自分の可能性を、自分で終わらせない」

――生徒一人一人の心に残る講話となりました。

◆「なぜ？」を追い続ける力　ノーベル賞

今年のノーベル化学賞に、東京理科大学名誉教授の硤合（そあい）憲三さんが選ばれました。硤合さんは、分子には右手と左手のような「鏡写しの形」があることに着目し、その一方が増えていく「自己触媒作用」を発見しました。この研究は、医薬品などの開発にもつながっています。硤合さんを支えたのは、「なぜだろう」という疑問を大切にし、答えを求めて粘り強く挑戦し続ける姿勢でした。皆さんも、日々の学習の中で生まれる「なぜ？」を大切にしてください。その小さな疑問が、未来を切り拓く大きな一歩になるかもしれません。

◆主な行事（変更する場合があります）

【１０月】
- １５日（木）お話会（リモート）
- １９日（月）小城市教育委員会学校訪問
- 小中参観ウィーク（～23日）
- ２０日（火）学級討議、学年集会
- ２１日（水）文化発表会練習（～30日）
- ２３日（金）生徒会専門委員会
- ２７日（火）QUアンケート、生徒会集会
- ２９日（木）1,2年合唱ｺﾝｸｰﾙ
- ３０日（金）文化発表会、3年合唱ｺﾝｸｰﾙ

【１１月】
- ２日（月）入試要項説明会（３年）
- 県英語テスト（全学年）
- ６日（金）県駅伝大会
- 第２回漢字検定
- １０日（火）全校集会（校長講話）
- １１日（水）後期中間テスト（～13日）
- １３日（金）１年防煙教室